

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	保健福祉局長寿推進部長寿社会対策課
評価対象期間	平成31年4月1日～令和6年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	北九州市立年長者研修大学校 (周望学舎・穴生学舎) 北九州穴生ドーム	施設類型	目的・機能
	所在地	周望学舎：小倉北区新高田二丁目29番1号 穴生学舎：八幡西区鉄竜一丁目5番1号 穴生ドーム：八幡西区鉄竜一丁目5番2号	(年長大) Ⅲ	⑦
			(穴生ドーム) Ⅲ	②
設置目的	(年長者研修大学校) 年長者に対して学習やスポーツの場を提供することにより、年長者の生きがいづくりや健康づくり及び社会活動の促進に資する。 (穴生ドーム) スポーツ活動を通じ、年長者の健康の維持増進及び世代間における交流を促進に資する。			
利用料金制		非利用料金制 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 一部利用料金制 ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	ペナルティ制 有・ <input checked="" type="checkbox"/> 無	
指定管理者	名称	北九州シニアネットワークアカデミー共同事業体		
	所在地	北九州市戸畑区汐井町1番6号		
指定管理業務の内容		(1) 年長者研修大学校・穴生ドームの運営に関する業務 (2) 生涯現役夢追塾の運営に関する業務 (3) 庶務事務(①運営に関する委員会の開催 ②利用料金の徴収・返還に係る事務 ③収支予算・決算事務 (ほか)) (4) 施設の維持管理に関する業務(①建物・設備・備品等の保守管理 ②建物及び敷地内の清掃 ③警備業務 ④駐車場維持管理 (ほか))		
指定期間		平成31年4月1日～令和7年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価 レベル	得点																																										
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み	40		27																																										
(1) 施設の設置目的の達成																																													
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。																																													
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。	25	3	15																																										
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。																																													
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。																																													
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">1 年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎</div> <p>①目的に沿った成果、目標達成</p> <p>【全体評価】</p> <p>第四期指定管理者の管理運営方針として、「高齢者の増加、さらなる高齢化への対応」「高齢者の働き方・学び方の変化への対応」「まちづくりの主役となる高齢者の育成」を掲げ、これに基づいて共同事業体の持つネットワークを活用して、北九州市の目指す「まちづくり」、「ひとづくり」の実現に向けて取組みがなされた。</p> <p>当該指定管理業務においては、管理運営方針を中心に捉えつつ、受講者のニーズを取り入れた多様なプログラムを設定している。指定管理業務が計画的に実施されており、この点については評価できる。</p> <p>一方、研修者の約85%がリピーターという状況の継続が、新たな地域活動人材の輩出を阻害する大きな要因となっており、地域活動人材養成の場としての機能が弱いという課題を解消できていないため、今後改善の努力が必要である</p> <p style="text-align: right;">＜利用者数推移＞ (単位：人)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>【参考】H30 年度</th> <th>R1 年度</th> <th>R2 年度</th> <th>R3 年度</th> <th>R4 年度</th> <th>R5 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>年間コース</td> <td>35,252</td> <td>34,440</td> <td>9,494</td> <td>19,228</td> <td>28,530</td> <td>27,492</td> </tr> <tr> <td>短期コース</td> <td>2,266</td> <td>3,275</td> <td>1,000</td> <td>1,031</td> <td>1,833</td> <td>1,563</td> </tr> <tr> <td>修了生による利用</td> <td>15,894</td> <td>14,979</td> <td>5,620</td> <td>8,379</td> <td>12,237</td> <td>11,760</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>10,557</td> <td>8,814</td> <td>1,459</td> <td>2,874</td> <td>5,136</td> <td>15,481</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>63,969</td> <td>61,508</td> <td>17,573</td> <td>31,512</td> <td>47,736</td> <td>(実績) 56,296 (目標) 64,000</td> </tr> </tbody> </table>				内容	【参考】H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	年間コース	35,252	34,440	9,494	19,228	28,530	27,492	短期コース	2,266	3,275	1,000	1,031	1,833	1,563	修了生による利用	15,894	14,979	5,620	8,379	12,237	11,760	その他	10,557	8,814	1,459	2,874	5,136	15,481	合計	63,969	61,508	17,573	31,512	47,736	(実績) 56,296 (目標) 64,000
内容	【参考】H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度																																							
年間コース	35,252	34,440	9,494	19,228	28,530	27,492																																							
短期コース	2,266	3,275	1,000	1,031	1,833	1,563																																							
修了生による利用	15,894	14,979	5,620	8,379	12,237	11,760																																							
その他	10,557	8,814	1,459	2,874	5,136	15,481																																							
合計	63,969	61,508	17,573	31,512	47,736	(実績) 56,296 (目標) 64,000																																							

※ . . . 評価対象年度

【利用者数】

新型コロナウイルスの影響により、令和2年度の前期、令和3年度5～6月、8～9月については休校となったため、利用者が大幅に減少した。令和4年度については、感染防止に取り組みつつ開校したが、新型コロナウイルスの影響が長引く中、利用者はコロナ禍以前の4分の3程度にとどまった。令和5年度については、積極的な利用者増加の取組により、コロナ禍以前の9割程度にまで利用者数が回復した。

【年間コース】

年間コースは、研修生のアンケートをもとに、毎年新しい内容が取り入れられている。令和5年度についても、カリキュラムを再編する上で、ニーズに合わせたコースの内容拡充によって研修生の満足度を高める工夫があったほか、地域福祉・ボランティアに関する講座の設定による地域活動への理解促進が行われている。また、新入生の確保及び円滑なコース運営と高齢者の社会参加や健康増進、仲間づくりを促進するため、定員に満たないコースについては、受付期間を3ヵ月間延長し、利用者の増加促進に努めている。

【短期講座】

短期講座は、短い期間である程度のレベルに達するものや、ニーズの高いもの、体験的なものを中心にコース設定を行っている。昨年度に引き続き、令和5年度においても、ワード・エクセルをはじめとしたパソコン講座、Z o o m入門等、高齢者のデジタルスキル向上のニーズに対応した講座を実施したほか、実用性及び訴求力のある短期講座のほか、一日体験講座や公開講座を実施し、年間コースへの応募増加に繋げるべく、新たな人材獲得に努めている。

また、両学舎では、研修修了後も学びを深めたり、地域・ボランティア活動を行ったりする修了生に対し、研修生表彰制度、施設の開放等の活動支援を行っている。

以上により、運営方針の実現に向けた内容充実が図られており、利用者数は目標とする人数に届いていないが、施設の設置目的に沿った一定の成果を得られたと評価できる。

②利用者増加の取組み

下記の取組みにより、利用者増加に力を注いでいる。

- ・体験入学（年2回）の実施、公開講座による修学検討者への情報提供
- ・ホームページ、SNSによる広報
- ・周望学舎と穴生学舎の交流事業の実施
- ・要望の多いITに特化した授業や音楽に特化した授業の新設など

③複数施設間の有機的な連携

年長者研修大学校周望学舎・穴生学舎・穴生ドーム間で事業ノウハウや広報・宣伝・営業ノウハウを共有し、事業のレベルアップ、職員全体のスキルアップ、広報の充実、経費節減などを図っている。具体的には、ホームページの共同制作・管理、入学案内の共同発行・配布などを行っている。また、他施設の相互利用（周望学舎のバスを共同利用）など、経営資源の有効活用を図っている。

④営業、広報活動

中高年に焦点を絞り、マスメディアを活用した広報、1日体験講座開講による勧誘、市・区社協だよりへの掲載、市民センターへの周知や公用車への広告掲示等を行っている。

る。また、チラシや入学案内の配置先を増やすことで新たな研修生の確保に積極的に努めており、評価できる。

2 北九州穴生ドーム

①目的に沿った成果、目標達成

【利用状況】

当施設は、スポーツ活動を通じ、年長者の健康維持増進、その他市民の心身の健全な発達及び世代間の交流の促進を目的として設置している。全天候型のドーム式多目的グラウンドであり、各種イベントで利用されるとともに、専用（団体）、個人で利用可能である。＜利用者数推移＞

(単位：人)

内容	【参考】H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
延利用者数	119,991	106,836	37,497	10,436	3,752	(実績) 25,471 (目標) 120,000

※ ・・・評価対象年度

当施設では、令和元年度の利用料金改定（増額）後、新たにアリーナの片面使用の料金設定を行うなど、利用基準の適正な設定や個人利用日の増設等を行うことにより、利用者や利用料金収入の増加に向けて取り組みがなされている。

令和元年度3月に新型コロナウイルスの影響により臨時休館、令和2年度から令和5年度10月末までは世界体操選手権の練習会場等の専用利用やワクチン接種会場等での利用により一般利用が制限され、令和元年度からは利用者数が減少した。令和5年度11月13日より一般利用を再開し、利用人数は令和4年度に比べて回復したものの、利用者数は25,471人とコロナ禍以前の4分の1程度にとどまった。開館日数は131日間となった。

【自主事業】

健康づくりを目的とした特徴のある取組みとして、下記の事業が実施された。

- ・ニュースポーツ普及・振興 ※括弧内：概ねの年間実施回数、延利用者数
ニュースポーツ出前体験（25回、370人）等の取組により、高齢者がスポーツを気軽に楽しめる機会を創出。また、新たにニュースポーツ体験教室（4

回、31人）を実施。

- ・健康ウォーキング

全天候型施設の利点を生かし、ドーム2階通路を開放し、ウォーキング（延利用1,031人）を実施。

- ・その他テニス教室をはじめ各種スポーツ教室（研修） など

以上により、制限のある中で、可能な限り、高齢者を始めとした多くの市民にスポーツ活動の機会の提供に努めたと考えられる。

②利用者増加の取組

年長者研修大学校と併せて行われている。

③複数施設間の有機的な連携

年長者研修大学校の記載のとおり。

④営業、広報活動

年長者研修大学校と併せて行ったほか、ニュースポーツ出前体験等の活動広報では、ホームページ・SNSが積極的に活用されており、評価できる。

3 生涯現役夢追塾

退職後も今まで培ってきた経験や技術を生かし、地域での経済活動や社会貢献活動などの担い手として活躍していく人材の発掘と育成を行う事業であり、約10ヶ月の期間には、課題解決能力を身につけるための多様なプログラムが設けられている。

例年は週1回受講、年30回程度であり、令和5年度は計33回実施された。

卒塾生には、コンサルタントとしての独立や、NPO法人・ボランティア団体を設立し、地域の中核として活躍を続けている人も多い。

前期課程では、塾生が「地域の担い手」として必要な基礎力を身につけるための講座を実施。その一つとして、各方面で活躍されているゲストスピーカー（6名）を迎え、「夢追い人」と銘打ち、インタビュー形式の講座が（6回）実施された。

また、後期課程では、計画立案からプロジェクトの実行を具体的に行う、プロジェクト・ベースド・ラーニングという手法を採用し、塾生は実践的な力を身につけられたと考える。

その他、特色のある取組として、卒塾生を講師とした講座の開催や、講座をオンライン配信し、塾生以外にも視聴してもらうことにより、卒塾生の地域貢献活動や夢追塾の活動のPR等に役立てられている。

<利用者数推移>

(単位：人)

内容	【参考】H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入塾者数	29	22	5	4	11	10
卒塾者数	17	22	3	4	10	10

※ ・・・評価対象年度

令和元年度の入塾者数は22人だったが、令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響により著しく減少した。令和4年度からは回復傾向にあるものの、コロナ禍以前の半数程度と依然低い水準であり、今後の改善が望まれる。

しかしながら、講座内容は、目的に沿ったプログラムで、インタビュー形式での講義の実施等、実践的な内容であり充実している。また、卒塾後のネットワークの構築など、フォロー体制の構築にも尽力しており、評価できる。

(2) 利用者の満足度

15

4

12

① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。			
② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④ 利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			

1 年長者研修大学校 周望学舎・穴生学舎

<アンケート結果>

(単位：%)

内容	【参考】	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
	H30年度					
受講した講座について →非常に良かった、良かった	97	97	97	98	97	98 (目標) 95
苦情や要望等への職員の対応 →非常に良かった、良かった	98	98	100	100	97	99 (目標) 95
総合的な意見 →大変満足、満足	98	96	97	96	97	98 (目標) 95
回答数	685	671	402	582	570	586

※ ・・・評価対象年度

① 利用者の満足度

令和元年度から、目標値を超える評価結果となっており、令和5年度に受講した講座についても、「非常に良かった」・「良かった」が約98%、総合評価では、「大変満足」・「満足」が約98%と非常に高く、指定管理者における受講生のニーズを十分に把握したサービスの質の高さが感じられる。

②利用者の意見の把握、反映

利用者のニーズの把握については、利用者アンケートにより把握し、意見・要望等を分析し、満足度の低い点については課題として捉え、次に生かす取組が実施されている。

③ 苦情に対する対応

苦情や要望等への職員の対応については、非常に良かった・良かったが約99%と非常に高く、適切な対応がなされていると思われる。

④利用者への情報提供

受講前にホームルームの時間を設け、カリキュラムやイベントについての説明、安全管理上の注意事項の説明等、確実な情報提供ができるようにしている。またHPに「周望学舎かわら版」「穴生学舎新聞」を掲載し、取組内容が楽しく伝わるような工夫を行い、受講者から好評を得ている。

⑤その他サービスの向上の取組

アンケートによると、現在地域活動やボランティア活動を行っている人が約42%おり、受講生がボランティア活動等に対して一定の関心を持っていることが把握されている。さらに受講生の地域活動等への関心を高めるため、全研修プログラムにボランティア活動実践（地域清掃等）を組み入れており、受講者の地域活動等への意識・意欲を、実際に地域へと繋げる取組が行われている。

また、健康づくりの一環として年間コースの受講者に体力づくり講座を実施するなど受講者の声に対応したプログラムの見直しが行われている。

これらの取組についても、満足度向上につながっていると考えられる。

2 北九州穴生ドーム

<アンケート結果>

(単位：%)

内容	【参考】 H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
施設は利用しやすかったですか →大変利用しやすかった、利用しやすかった	90	96	98	未実施		96 (目標) 95
苦情や要望等への職員の対応 →非常に良かった、良かった	96	97	100			99 (目標) 95
総合的な意見 →大変満足、満足	94	95	99			97 (目標) 95
回答数	300	327	317			300

※ ・・・評価対象年度

※未実施の年度は、新型コロナワクチン接種会場として専用使用のため、アンケート調査が実施されなかったもの。

①利用者の満足度

令和元年度から目標値を超える評価結果となっており、令和3年度、4年度については新型コロナウイルス等の影響によりほぼ1年間一般利用を制限していたため、アンケートを実施できなかった。令和5年度においては、「大変利用しやすかった」・「利用しやすかった」が約96%、総合評価では、「大変満足」・「満足」が約97%と令和2年度に引き続き非常に高く、指定管理者において適切なサービス提供がなされている。

②利用者の意見の把握、反映

利用者のニーズの把握については、利用者アンケートにより把握し、意見・要望等を分析し、満足度の低い点については課題として捉え、次に活かす取組が実施されている。

③苦情に対する対応

苦情に対する対応について、非常に良かった・良かったが約99%と令和2年度に引き続き非常に高く、適切な対応がなされていると感じられる。

④利用者への情報提供

例年、受付ロビーの掲示板によるスケジュールの掲出、各種イベントのチラシの配架等を実施しており、特に令和5年度にはホームページのフルリニューアルやイメージを一新した募集パンフレットの作成に取り組んだ。情報提供についても力を入れており、利用者の情報入手にかかる利便性を向上させている。

⑤その他サービスの向上の取組み

利用者の苦情・要望等については、それぞれの内容及びその対応を記録し、共有することで、対応ノウハウの蓄積を図っている。その結果、利用者への迅速な説明等、適切な対応がなされている。

3 生涯現役夢追塾

<アンケート結果>

(単位：%)

内容	【参考】 H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
【前期課程】 今までの自分になかったものを学ぶことができたか →とても良く学ぶことができた、まあまあ学ぶことができた	69	85	100	75	100	100
【後期課程】 担当コーディネーターはスムーズなプロジェクト進行や意見の促しなどを行っていたか →とても適切に行っていた、まあまあ適切に行っていた	46	54	100	75	89	100
事務局からのフォロー、バックアップ体制は適切だったか →とても適切だった、まあまあ適切だった	86	100	100	100	89	100
回答数	17	22	3	4	10	10

※ ・・・評価対象年度

例年、課程修了毎にアンケートを行っており、利用者のニーズを把握するための十分な努力がなされている。また、アンケート結果をプログラム編成にフィードバックしており、内容改善に生かされている。

令和2年度からは新型コロナウイルスの影響により入塾者が減少しており、令和5年度のアンケートについても、総数が10人と少ないため、統計的に活用することは難しいが、前期課程での新たな学びについて、「とても良く学ぶことができた」・「まあまあ学ぶことができた」が100%、また、後期課程でスムーズな進行等について、「とても適切に行っていた」・「まあまあ適切に行っていた」が100%となっており高評価である。

全課程を通じての事務局からのフォロー、バックアップ体制についてのアンケートでは、「とても適切だった」・「まあまあ適切だった」が100%で、適切な対応がなされていると考えられる。

2 効率性の向上等に関する取組み	40		30
(1) 経費の低減等			
① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。	30	4	24
② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			

①経費節減の取組

＜支出総額推移＞

	【参考】 H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
支出総額 (単位:千円)	187,470	187,479	171,758	175,086	181,960	184,969 (目標) 184,000
前年比 (単位:%)	-1.3	0.0	-8.4	1.9	3.9	1.7

※ ・・・評価対象年度

令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの影響による休校に伴い、例年より支出総額が減少している。令和5年度の支出総額は184,969千円で、前年度と比較して1.7%の増加と前年度並み、コロナ禍以前に比べてもほぼ変わらない結果となった。特に、令和5年度の光熱水費は、物価高騰している状況の中、約6,673千円の戻入があっている。指定管理者による照明のこまめな消灯、利用者への積極的な節電・節水の声掛け等が行われており、経費節減の取組が積極的になされていると評価できる。

②再委託に係る取組

例年、専門知識・技術が必要となる業務（エレベーター保守点検業務、夢追塾コーディネーター業務）については、特命随意契約とされているが、金額の妥当性を確認した上で、契約の更新がなされている。その他、清掃及び機械管理業務については指名競争入札とし、競争性を発揮させることで経費抑制に努めたと考えられる。

③経費の効果的・効率的な執行

共同事業体の強みを生かし、広報媒体の共有や、いきがい活動ステーションと連携し

た講座を開催したりするなど、経費の効果的・効率的な執行に努めていると考えられる。

(2) 収入の増加

① 収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。	10	3	6
-------------------------------------	----	---	---

①収入の増加

収入状況については、下記のとおりである。

<収入>

(単位：千円)

項目	【参考】H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
指定管理料	153,885	185,583	183,152	181,968	182,276	182,213
利用料金	37,185	9,718	8,004	11,287	15,028	11,018
自主事業	4,532	0	0	0	0	0
その他収入	1,382	0	1	1	376	73
計	196,985	195,301	191,157	193,256	197,680	193,304

※ . . . 評価対象年度

平成30年度まで年間コースの講座受講料を指定管理者の利用料金収入として取り扱ってきたが、令和元年度から市の歳入として見直したため、利用料金収入は穴生ドーム利用料金のみである。主に、新型コロナウイルスワクチン接種会場の利用終了に伴う専用利用の利用料収入が減少したことにより、利用料金収入は前年度と比較して約4,010千円減少した。

なお、平成30年度まで自主事業としていた短期講座やシニアカレッジは、令和元年度から指定管理業務として実施されており、受講料と同様に収入は市の歳入として取り扱うこととなっている。

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み 20 12

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。	10	3	6
② 職員の資質・能力向上を図る取り組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。			
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			

① 人員配置

共同事業体（年長者研修大学校及び穴生ドーム：北九州市社会福祉協議会、生涯現役夢追塾：里山を考える会）による事業実施が行われており、適切な職員体制と役割分担により効率的な運営がなされている。

② 人員の資質・能力向上を図る取組

共同事業体の構成員である北九州市社会福祉協議会及び里山を考える会それぞれにおいて、各種研修を行い、職員の資質・能力向上が図られている。

③ 地域、関係団体等との連携

北九州市社会福祉協議会は、地域レベルの区社会福祉協議会を組織しており、修了生に対する地域における活動の場の提供等、地域との連携が図られている。

また、里山を考える会は、NPO法人としての独自のネットワークを活用し、各種団体から講師を招聘して講座を開催したり、大学生に協力を依頼して若者の意見を参加者にフィードバックする取組を実施したりすることで、研修内容が実践的なものとなるよう努めている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

① 施設の利用者の個人情報保護のための対策が適切に実施されているか。	10	3	6
② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。			
④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。			
⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			

①個人情報保護対策

個人情報保護について、「個人情報保護方針」など必要な規程を設け、適正な管理を行っており、漏洩等の事故は発生していない。

②平等利用

施設の利用受付に当たっては、地方自治法及び北九州市社会福祉施設の設置及び管理に関する条例等を遵守し、利用目的を確認の上、公平・平等な取扱いが行われている。

③利用者の公平な選定

利用者が重複した場合等、予め明示したルールに則り、公平な利用調整、選定が行われている。

④収支内容

利用料金の徴収について、適正に行われており、問題はなかった。また、月例報告書、年報など各種報告書も適切であった。

⑤安全対策

適正なスタッフ配置による安全管理により安全確保に努めている。また、常日頃よりスタッフが受講生の状態を見極め、事故に至らないよう予防保全にも努められている。用具、器具の管理についても適正であった。

⑥防犯、防災対策

施設内の防犯、防災対策については、必要な計画を定めると同時に、各種団体とのネットワーク、相互協定等を活用し、迅速な対応が可能な体制づくりが行われている。

⑦事故発生時対応等

年長者研修大学校は、高齢者が受講する施設であるため、受講者個人の持病の悪化や脱水症状による体調不良など、迅速な対応が求められる場合もあるが、職員による適切な対応がなされている。

【総合評価】

合計得点	69	評価ランク	C
[評価の理由]			
<p>年長者研修大学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響が続いていたが、ニーズに合わせたコース内容の拡充や、ホームページ、SNS、マスメディア等を活用した広報活動等により、延べ利用者数はコロナ禍以前の9割程度まで回復した。 ・利用者の満足度については、アンケートの結果、高く評価されており、職員・講師の対応、講座等のプログラム、施設維持管理において、質の維持・向上に努めていることが伺える。 ・新規研修生の獲得、修了後の地域活動実践者の養成という点においては、より一層の工夫と努力が求められる。 			
<p>北九州穴生ドーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においては、施設の利用休止やワクチン接種会場としての長期専用利用等により、指定管理事業者にとって職員配置を含めてイレギュラーな対応が求められたが、他部局や民間事業者との直接の調整を含めて、適切な対応がなされていた。 ・利用可能であった期間は、市民の健康・体力づくりを推進するための様々な取組を実施しており、年長者の健康増進施設としての役割を果たしている。 ・個人利用者の予約方法（施設窓口のみで受付）については、利用者の利便性に配慮した方法の検討が必要と思われる。 			
<p>生涯現役夢追塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒塾後も地域で活動し、一つの形となった事業を展開している者も数多く、実践的な講座内容が実を結んでいると言える。 ・年長者研修大学校指定管理事業の一つであるが、連携による相乗効果については不明確な部分も多く、検証が必要。 ・コロナ禍以降の入塾生数の減少が課題となっているが、入塾した者の評価は非常に高い。効果的な広報できれば、自ずと人は集まって来ることが期待できる。 			

<p>[北九州市指定管理の評価に関する検討会議における意見]</p> <p>適正に評価されている。</p> <p>今後も、市と指定管理者と協働で、市民サービスのより良い向上に向けて連携していただきたい。</p>

【評価レベル】

評価 レベル	乗 率		評価レベルの考え方
5	100%	良 い	要求水準を大幅に上回り、特に優れた管理運営がなされている
4	80%		要求水準を上回り、優れた管理運営がなされている
3	60%	普 通	要求水準を満たしており、適正に管理運営がなされている
2	40%		要求水準を下回る管理運営がなされている
1	20%		要求水準を大幅に下回る管理運営がなされている
0	0%	適切でない	不適切な管理運営がなされている

【総合評価】

- A：総合評価の結果、優れていると認められる
(合計得点が80点以上)
- B：総合評価の結果、やや優れていると認められる
(合計得点が70点以上80点未満)
- C：総合評価の結果、適正であると認められる
(合計得点が60点以上70点未満)
- D：総合評価の結果、努力が必要であると認められる
(合計得点が50点以上60点未満)
- E：総合評価の結果、かなりの努力が必要であると認められる
(合計得点が50点未満)